

国語科学習指導案

富田林市立小金台小学校

指導者 藤野 亮

1. 日時

令和4年 12月1日(木) 第5校時(13:25~14:10)

2. 学年・組

第1学年2組(33名)

3. 単元名・教材名

すきなところを見つけよう 「たぬきの糸車」 光村図書・1年

4. 単元目標

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。【知(1)ク】
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。【思C(1)エ】
- ・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。【思C(1)イ】

5. 指導にあたって

(1) 教材観

本教材は、物語の展開が明解であり、魅力的な登場人物の行動描写が中心となった文章で、人物の行動から場面の様子を捉えるのに適した教材である。物語の柱になっているものは、「たぬきのいたずら心」であり、「おかみさんとたぬきの心の交流」である。やってみたくてたまらなかったことを、思う存分やり尽くして喜々として帰っていくたぬきの姿は、児童が十分同化できるものをもっている。そんなたぬきの姿に親しみとかわいらしさを感じるようになったおかみさんの気持ちにも、自然な感情移入しやすい作品である。さらに、季節や出来事の変化をもとに、まとまりが捉えやすい作品といえる。

「キークルクル」という糸車の回る擬音と「くるりくるり」という擬態語が「~につれて」という言葉でつながれ、リズムカルな楽しさ、ユーモラスな情景を描き出している。児童は音読を重ねることで、言葉の楽しさを実感し、自然に物語の世界に入っていくことができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、何事にも積極的に挑戦する児童が多い。入学して、はじめての活動も多いが、前向きに取り組む姿が多くみられる。また、授業中は、進んで挙手をする児童が多い。

国語科では、一学期に「おおきなかぶ」・「おむすびころりん」を学習した。リズムよく音読することを楽しみながら読み進めていき、登場人物の心情を本文や挿絵、セリフから想像し、話し合う活動も行った。

二学期に入り、「うみのかくれんぼ」では、学習の最後でどの生き物が好きかを話し合った。なぜその生き物が好きなのか理由も含めて自分の意見を書いて、全体で発表した。「やくそく」の学習では、三匹の青虫や木のセリフに注目して、登場人物の心情について話し合った。「くじらぐも」では、子どもたちと自分たちを重ねて物語を読み進めた。登場人物の気持ちを吹き出しに書き、意見を出し合う中で想像を広げて、物語を楽しんだ。そして、授業の最後に本時のめあてにそってふり返りを書く活動を取り入れた。ふり返りには、根拠をもって自分の考えをかける児童も少数みられたが、まだまだ言葉が足りなく根拠のないふり返りが多い。今後は、言葉の使い方やキーワードを示しながら、根拠をもって自分の考えをふり返りに書くことができる子どもたちを育てていきたい。

(3) 指導観

①指導に当たって

本単元では、楽しんだり、想像を広げたりしながら昔話を読むことについて、音読を中心とした言語活動を行う。最後には物語の大体の内容を捉えたうえで自分の好きなところを考え、交流する活動を行う。

そのために、第一次で大まかな話の流れを捉えさせる。「糸車」や「きこり」、「障子」など見たこと聞いたことない言葉も文章中に出てくるので、初めに語句の説明を行う。そして、範読を行い、それを聞いて初発の感想を書かせる。その感想も全体で交流し、それぞれ感じ方に違いがあることに気づかせたい。また、自分の考えを発表することの面白さや、相手の考えを受け止めたり、共感することの大切さも学ばせたい。

第二次では、物語の内容を子どもたちの話し合いを通して、正確に捉えていく。その際には、文章や挿絵を基に、登場人物の行動や気持ちを想像させる。

第一場面では、たぬきがしたいはずとその理由を話し合っ、たぬきはさみしくていたずらをしてしまっていたり、好奇心旺盛なたぬきの性格に気づかせたい。

第二場面以降では、まず、おかみさんのたぬきに対する気持ちの変化を罫をしかけて捕まえたいという思いから、毎晩のように糸車で糸をつむぐ様子を見に来るたぬきがどんどんかわいくなっていく様子から捉えさせたい。つぎに、たぬきの気持ちの変化に気づかせる。糸車をまわしてみたいという気持ちから、命を助けてくれたおかみさんのために恩返ししたいという気持ちで糸車をまわしていることを気づかせる。この物語では、たぬきの台詞はないので、たぬきの行動を本文や挿絵をもとに自由に想像を膨らませたい。

第三次では、第二次で内容理解をした上で、もう一度、この物語の好きなところを考え交流させる。第一次と好きどころが変化してもそのままでもいいが、第二次で学習したことが反映されているかを評価した

い。

②話し合い活動にあたって

話し合い活動については、話し合う内容について、まず個人で考えさせ記述させる。その時に、叙述や挿絵をもとに考えさせるようにする。つぎに、考えたことをペアやグループで伝え合う。その中で、共感し合い、質問し合うことで自分の考えがまとまり、整理され、全体での発表の際に、自信を持って発表することができるようになる。さらに、全体での発表を行う。グループや全体での話し合いの場では、他の人の考えを聞き、自分の考えと比較して同じところ、違うところを考え、多様な考えがあることを知り、自分の考えを広げさせたい。また、他者の意見をもとに自分の考えを深めていってほしいと考える。

③ふり返りにあたって

授業の最後には、ふり返りを記述させる。その時間のめあてに対して、授業を通して自分が考えたことを書く。ふり返りの評価は、めあてに沿った内容が書けていれば、B 評価とする。B 評価の内容に根拠をもって書くことができたら A 評価とする。

④本時の活動にあたって

本時では、たぬきの気持ちの変化を捉えさせたい。初め、糸車をまわしてみたいという気持ちで、毎晩おかみさんの糸車をまわす様子を見に来ていたが、毘にかかったところをおかみさんに助けてもらったことで、おかみさんに感謝し恩返しの気持ちをもつ。冬の間、おかみさんを思って糸車をまわしていたということに気づかせたい。本時のめあては、「糸車をまわすたぬきの気持ちをかんがえよう。」にしている。おかみさんへの思いに気づいて糸車をまわしていると考えた児童もいると思うが、糸車をまわせてうれしいといった意見が多く出ることが予想される。そこで、第三場面に毘にかかったたぬきがおかみさんに助けてもらったことで、おかみさんに恩返ししたいという気持ちになっていることに気づかせる。その後、第二場面と第四場面のたぬきの行動や様子を本文や挿絵から想像させることで、おかみさんへの思いをもって糸車を回していることに気づくことができると考える。

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (知(1)ク)</p>	<p>・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(思C(1)イ)</p> <p>・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (思C(1)エ)</p>	<p>・これまでの学習をいかし、場面の様子に進んで着目し、好きな場面を音読しようとしている。</p>

7. 単元計画(本時5/8)

時間	○学習活動	◇指導上の留意点	・評価規準
1	<p>○学習課題を確認し、見直しをもつ。</p> <p>○教師の範読を聞いて、好きなところを見つける。</p> <p>○文章全体の構成を捉える(いつどこでだれ)</p> <p>○難語句の説明。</p>	<p>◇教師の例を見せることで学習の見直しをもたせる。</p> <p>◇物語の好きなところに線を引かせる。</p>	<p>・「たぬきの糸車」を読み、内容の大体を捉えている。【思】</p> <p>・学習の見直しをもち、「たぬきの糸車」を進んで読もうとしている。【主】</p>
2	<p>① きこりが住む山奥の一軒家</p> <p>② 糸をつむぐまねをするたぬき</p> <p>○たぬきがしたいはずらと糸をつむぐまねをする気持ちを話し合う。</p>	<p>◇登場人物の様子を本文や挿絵から想像させる。</p> <p>◇①～⑤までの場面のあらすじを捉える。</p>	<p>・本文や挿絵をもとにしながら場面の様子から登場人物の行動やその行動の理由(気持ち)を具体的に想像している。【思】</p>
3	<p>③わなにかかったたぬき</p> <p>○たすけてもらったたぬきの気持ちを話し合う。</p>	<p>◇音読をする際に、登場人物の様子や気持ちを考えながら読ませる。</p>	<p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。【知】</p>
4	<p>○おかみさんの気持ちの変化について話し合う</p>	<p>◇話し合いの時には、自分</p>	<p>・話し合いや振り返りの中で、</p>

5 (本時)	④糸車を回すたぬき ○たぬきの気持ちの変化について話し合う。	の考えと他の人の考えの違いを意識させながら行う。	他の意見に共感・納得し、自分の考えを深めることができる。【主】
6	⑤踊りながら帰っていくたぬき ○踊りながら帰っていくたぬきの気持ちを話し合う。		
7	○「たぬきの糸車」を読んで、自分の好きなどころを選んで視写し、絵を描く。	◇人それぞれ感じ方が違うことに気づかせる。	・物語の好きなどころを選び、楽しみながら音読で伝え合っている。【知】
8	○自分の好きなどころを伝え合う。		

8. 本時の目標

- ・話し合いを通して、たぬきの気持ちの変化に気づくことができる。

9. 本時の評価基準

十分満足できる状況	概ね満足できる状況	努力を要する子どもへの支援
・たぬきの糸車を回すときの気持ちを本文や挿絵から想像することができ、たぬきの気持ちの変化を根拠をもって具体的に考えることができている。	・たぬきの糸車を回すときの気持ちを本文や挿絵から想像することができ、たぬきの恩返しした気持ちに気づくことができている。	・ペアでの話し合いの場面等で、友だちの意見を参考にして、自分の考えを持てるようにする。 ・たぬきの様子がわかる文に線を引かせる。